2019 年（令和元年）10 月 1 日
くげぬま探求クラブ

会報　くぐひ

第 99 号（秋号）

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

公民館まつりを楽しもう

編集部 小山 和彦

43 回目となる公民館まつりが目前に迫った。

くげぬま探求クラブが総力を挙げて参加してきた「鵠沼地区公民館まつり」に我々はこれまでどのように関わってきたのか遡って調べつつ参加の意義について考えてみたい。

【古本市】開場 1 時間前には長蛇の列ができるなどまつりの目玉となっている古本市への協力は、くげぬま探求クラブ発足の平成 5 年（1993 年）5 月から間もない 10 月の第 17 回公民館まつりから始まった。本の運搬など力仕事が多いこのイベントにはできたばかりの男性サークルの協力がうってつけとみたのか公民館から協力依頼があり、クラブ初のボランティア活動となった。初参加時の本の扱い数は 2000 冊ほどで売り上げは 7 万円ほどだったらしいが現在では受付冊数は 1 万数千冊にも及ぶ。

まつり前の 10 月初旬に約 1 週間、クラブ員総出で行う古本の受付けから仕事が始まり、当日は販売のサポート、本の整理、終了後の搬出まで忙しく多くの手が必要だ。

【焼き芋】クラブ発足 4 年目の平成 8 年（第 20 回）に、そろそろ古本以外にも何かということで模索していたところ、遠藤公民館のまつりで焼き芋販売をしていた青少協の知人を介して、釜一式が借りられることになり青少協との共催で行ったのが始まり。その後借りていた釜はクラブに譲渡され、クラブ創立 10 年目に 2 代目の釜が黒川さん（故人）によって製作されて公民館まつりと鵠洋児童館のわんぱくまつりに使われている。焼き芋販売は毎回焼き上がりと同時に完売するほどの人気で秋の風物詩として定着している。

【手づくりおもちゃ】平成 13 年（2001 年）2 月「こどもと遊ぶ会」の前身、鵠洋児童館「探求さんと遊ぼう（工作コーナー）」がスタートしたのに合わせて同年のまつりに「手づくりおもちゃ」ブースを開設、木の手づくりおもちゃの製作体験と販売が開始された。子供たちにクラブ員が慣れ親しんだ昔懐かしい手づくりのおもちゃを作って楽しんでもらおうと腕に覚えのあるメンバーが張り切って参加。予想外に好評だったようで現在まで続くイベントとなっている。

【囲碁・将棋コーナー】平成 21 年（2009 年）、公民館からの依頼で定例の鵠っ子囲碁・将棋ルームの特別活動として参加している。人通りの多い駐車場スペースの奥のテント一張りを使っての出店である。当日は毎月の例会に参加する子どもたちに加えて囲碁・将棋好きの大人も集まって賑わっている。

【災害研究部会展示】昨年、平成 30 年（2018 年）、創立 25 周年記念の行事の一つとして実施された探求クラブ初の展示である。地域活動の一部会として災害時には絶対に必要になるトイレと水の確保を実物のトイレとパネルで展示した。展示を見て片瀬地区の町内会から出張展示の話が来るなど一定の評価をえた。しかし 1 年だけでは浸透しないとの結論から今年はトイレに絞って展示を行う。

【ヤングブラザーズ】平成 14 年（2002 年）10 月、探求メンバー7 人で結成したヤンブラは 2 年後の平成 16 年（2004 年）には公民館まつり芸能音楽祭への出演を行って現在に至る。この数年はゲストも含め 20 名を超えるグループとなり、短い時間ではあるが男声合唱ならではの重厚な合唱を届けて喝さいを浴びている。

こうして見てくると探求クラブはその創立時から「全員参加」を合言葉にまつりの下準備（テント設営・パネル設置）から撤収も含めて公民館まつりに参加してきた。参加サークルの中では最大の 6 つのイベントでまつりを支え、老若男女を問わず楽しんでもらっている。まつりを通して、地区の人々、参加サークルの人々との交流を図ることによって日頃の活動を続けていく原動力となることを確信している。さぁ！みんなで公民館まつりを楽しもう！

親睦･研鑽部会紹介

サロン会　“アー～～楽しみ”

萩原 興成

サロン会は、毎月第三土曜日に鵠南市民の家で17:00～20:00ごろまで開催されます。酒代として会費500円、他に各自500円程度のつまみ（手作り料理又はスーパーなどで購入）を持参してもらうことを基本にしています。

冬場などは「おでん」などを準備し参加者は手ぶらで参加ができるよう、ミニイベントなども行っています。誕生月の方は会費免除されるルールなのですが、昨今参加者が 10 人を割ると赤字になることもあります。でもいくらか余剰金があるので何とかなっているのが現状です。そのため少しでも安い店で酒類の購入が最重要課題となりますが、その労力より皆さんが楽しく飲んでひと時の時間を共有できることの楽しさには代えられないと思い頑張っています。

皆さんはそれぞれの話に花を咲かせるのと同時に、お酒の量も半端ではなく、ビール500㎖10本・日本酒2本・ワイン1本程度はいつも空になるほどです。とても平均年齢 80 歳に近いおじ様（中には80歳オーバーの方も居ます）たちの集まりとは思えませんね（一般的には）。これからも酒好きのおじ様たちはサロン会を盛り上げて下さることでしょう、…酒と・肴と・おじ様たち…今月はどんな話で盛り上がるんでしょうかね？　“アー～～楽しみ”。

探訪部会

地域の歴史に学ぶ

森 芳之

当部会は探求クラブ発足後、間もない時期に自分たちが住む地域の過去から現在までの変遷を、現在残っている道路、河川、城址、神社、寺院、石仏等の史跡を自分の目で見、歩いて知ろうとする主旨で活動を開始し、今まで継続しています。

活動内容は湘南の海岸線をたどったり、引地川・境川の源流探検、「神奈川県名所史跡 45 選（神奈川新報社）」の探訪から始まり、その後、「藤沢市文化財ハイキング（藤沢市発刊）」をもとに、相模の国府史跡にある神社、奈良時代の延喜式（法令）で定められた県内の式内社（神社 13 社）、観音霊場巡りの盛んな時期に定められた「坂東三十三観音霊場」の県内九札所（寺院）めぐりを実施しました。

また、県内を通る古道、大山阿夫利神社参拝への田村通り大山道、江の島観音参りの江の島道、古代の関東への主要な幹道であった矢倉沢往還、そして、近代の主要幹道の東海道（県内）とその宿場（川崎宿、神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿、藤沢宿、平塚宿、大磯宿、小田原宿、箱根宿）を訪ねました。その他、「近隣の街めぐり」として、八王子、町田、横須賀、久里浜、茅ケ崎、座間、綾瀬、小田原、大和、開成町の市町村を巡りました。

現在は「鎌倉史跡散策」を題材に鎌倉市内の神社仏閣などの名所・旧跡の散策をしています。

探訪活動を続けてみて、日頃、見慣れている地域の史跡等について自分達がいかに知らないことが多くあることや、そこにある鳥居、狛犬、神社建築様式、石仏などについてもその種類の多さや特徴など先人の思い・祈りなどの知識が**詰まっているのがわかり、好奇心がくすぐられます。**

イベント紹介（１）鵠っ子囲碁・将棋ルーム

湘南台公民館夏休みこども教室＜将棋＞サポート記

池田 修

将棋の藤井聡太七段（17歳）と囲碁の仲邑菫初段（10歳）の衝撃デビューで、ともに世間の関心度が急上昇。こんな中 8 月 26 日にお隣の湘南台公民館が、初の夏休みこども教室＜将棋＞を開催した。鵠沼ではおなじみでも湘南台では初の試み。それだけに運営方法はいかにと打つ手を模索の末、我が鵠っ子囲碁・将棋ルームの実績を知り、同公民館からお手伝い要請状（教育長名）が届いた。

くげぬま探求クラブ結成の5年後（1999年）から早 20 年、公民館とタッグで鵠っ子たちへ将棋と囲碁の普及活動に汗を流してきた“ルーム”の実績が認められ、駒、盤（10 台）、先生役と丸ごと一式でサポートすることになった。

当日午前10時、1年生（2人）から6年生までの17人（うち女児4人）が一堂に…。先生役の将棋ルームの面々からマナーと将棋の何たるかのレクチャーを受けるのももどかしく、即実戦となる。低学年の女児だってキリッとした表情で静かに駒を置く。

攻防果てしなく…と思う間もなく、勝者敗者が決まると対戦相手を交代。流れるような対局が続く。勝者の雄たけび、敗者の悔し泣きなど微塵もない堂々たる対局2時間。湘南台の将棋っ子の夏休みの日記には「将棋だいすき！探求さんありがとう」と記されるかな。

私こういうものです

前号に引き続き６月入会の新入会員の自己紹介です。
会員数は 55 名になりました

畑中 英男さん

1940 年大阪生まれ。京都(伏見)に移り、学生時代のほとんどを過ごしました。就職、上京し、以後営業をやり、東京、川崎、横浜と大阪、四国を行ったり来たり、退職後、大阪(高槻)に住んでいましたが、昨年夏母が他界したのを機に、子や孫達が住んでいる神奈川に引っ越してきました。

藤沢は今回で２度目ですが、歳をとってきて、やはり関西(京都)の方が落ちつき、桜や紅葉を観に故郷へ帰ることを楽しみにしております。

趣味は営業をやっていたこともあり、いろいろ面白かったですが、今は体力・気力・お金がなくなり、音楽だけになりました。新曲を覚えるのは頭脳に良く、大きな声を出すのは体に良いので、今後長く続けられたらと良いと願っております。

私は海が大好きで湘南の海は楽しみです。

井上 忍さん

私は1948年11月生まれ。小学校五年生まで、岡山県の児島半島の村で過ごしました。

村は岡山市内を流れる旭川の河口近くの児島湾内に在り、北側と東側は船溜まりに面しており、家からは児島半島の各村々をめぐり通勤、通学、他の人々や荷物を岡山へ運ぶ巡行船や貨物船等が行交うのが望めました。

六年生から東京に引越し西荻窪の小学校に転入し、ここで大きなカルチャーショックを受けました。

岡山では大声で歌っていれば良かった音楽の授業は、専任の先生が居て、一人ひとり先生の側でピアノに合わせ歌い演奏し、合格しないと次の時間も、その次の時間も、合格するまで何度も・・・。

社会人になり、結婚してからは鶴見の社宅に２年、第一子が生まれたので自然を感じられる環境で子育てをと思い、瀬谷に生垣の建屋は小さいが庭家庭菜園も出来る庭の在る古家を取得しました。

子供達（男：1、女：2）が皆結婚し家を出たのを機に、老後は海辺でと、また、草取りや生垣の手入れがあまり必要ない、かつ、子供達（長男：大和、長女：藤沢、次女：茅ケ崎）とはあまり遠くない、辻堂に 2013 年 11 月に移住しました。

しかしながら、長女、次女とは近過ぎて、また、孫８人は賑やかで、嬉しくも疲れる生活となっています。

田島 達也さん

北海道で生まれ育った私は、学生時代に上京し、社会人に。仕事の関係で、神奈川、大阪、名古屋、東京と転居してきました。最後は愛着のあるこの藤沢の地で過ごしたい、と東京の吉祥寺より越して 17 年になります。それでも、その大半は会社を行き来する毎日。一昨年定年を迎え、少し時間にもゆとりが生まれた頃、周囲を見回す余裕ができてきたようです。この時期だったからでしょうか、西脇さんに、このクラブに誘って頂きました。地域のことは、この地で生まれ育った方に教えて頂くのが一番早いと思い、喜んで入会させて頂いた次第です。

家族は妻と娘がひとり。駒沢公園から月に一度、孫と一緒に遊びに来るのを楽しみにしているオジィになっています。幼な子の成長は元より、母親らしくなっていく娘の姿が何より嬉しい昨今でもあります。４歳になる孫は男の子でもあり、遊びも徐々にエスカレート……二人が帰った後は妻も私もクタクタ…。「孫は来て良し、帰って良し」とは、言い得て妙と、昔人に感心するばかりです。体力が孫と逆転するのも、それほど遠くないかもしれない、との危機感で？、今のうちに鍛えておかねば！と、焦る日々でもあります。

月に一度の公園清掃は、気持ちの良い朝、運動にもなり有難いひと時です。

「気候温暖にして、人心穏やか」の歴史ある、この地で、クラブの皆さまとの交流を楽しみにしています。どうぞ宜しくお願い致します。

ビフォア・アフター

己も豊かになる社会人間を目指して

新村 満

今年(2019 年)2 月 2 日の臨時総会資料によると、入会は平成 6 年(1994 年)4 月 1 日となっている。この日はクラブ結成が公けになった時である。クラブ結成の少し前のある晩、勤めから帰るときにいつものように鵠沼海岸駅を降りて、ここちよい鵠沼海岸の風に吹かれていると、中年の男性が近づいてきてチラシを渡しくれた。それはクラブの紹介、入会のお勧めだった。これがきっかけにクラブに参加するようになった。その頃丁度、これからは社会のお役に立てたらという気持ちがあった。

会社では仕事のこと、取引先のことなどを想い、悩む日々であった、地域のことはもとより自分のことなどに気が付くことはなかった。勤めていた会社では定年(60 歳)4、5 年前の社員に「ハッピー・リタイヤメント」セミナーという講座を勧められた。出席するかどうかは社員が選択できた。希望によって、夫婦で出席することもできた。

肩たたきのようではあるが、退職後の日々の過ごし方などについてその分野の専門団体の講師が、あれこれ情報提供や提案などをして、本人の気づきや自覚を促す機会であった。

定年を前にしてこれまでに体験してない分野は何だったろうかと振り返ったら、いつも偉そうな顔している人事部は無かったと思いついた。丁度その頃、社員の健康管理やメンタルヘルス体制の見直しがあるがやってみないかと人事の先輩から声を掛けられた。移ってみると今までにはない、産業医、嘱託医、カウンセラーとのかかわりが始まった。そんな機会から、産業カウンセラーの資格取得を試みた。その延長線で、勤務時間を終わって「東京いのちの電話」の受話器を取って話を聞くこともした。

一緒にやってきた産業カウンセラーの仲間たちが何故か家庭裁判所の家事調停委員になる流れがあった。退職の日を迎えるころ、社会のお役に立てばと横浜家庭裁判所の家事調停委員に挑戦して委嘱された。その時はクラブに参加した同時期であった。

クラブでは 4 年目に例会で定例の議事をはさんで、始めてグループ(運営委員会)でクラブの運営について世話人を交えて意見を交わす機会があり全員参加の雰囲気であった。多分、世話人たちがより魅力的なクラブを目指した試みだったと思う。

クラブ参加直後は、とにかく今までに体験したことがない公園活動としての「鵠沼松が岡公園愛護会」に参加し、作業の後の一杯がうれしかった。農作業としての「農園部会」で加藤信行さんや簑島禎男さんにいろいろ教えていただき、農作物の収穫までのお世話の大切さを味わい新鮮だった。10 月の公民館まつりでは、古本市に参加し、お年寄りの家に古本を取りにいったこともあった。

「社会人間・地域人間」になることによって社会・地域に貢献することはもちろんであるが、多才・多感で鋭敏な同士と交わることでより豊かな人生を過ごすことだと思う。

イベント紹介（2）

納涼会開催

塩川 昌男

暑気払いにふさわしい厳しい残暑の中、恒例の納涼会が 8 月 17 日に藤が谷市民会館にて開催された。参加者は 35 名、小山さんの司会のもと、奥村代表の乾杯の発声でスタートした。今回は新入会員の参加者が多く、鈴木実、鶴田、大木、西村望、小柳、畑中、井上の各氏がそれぞれ個性的な挨拶をおこなった。田中章さんは飛び入りのトークで、全英女子オープンで優勝した渋野日名子にちなむ話題を披露し笑いを誘った。

後半にはヤングハーツの鈴木実さん、野村さん、小山さんの演奏に合わせて全員での合唱と、野村さんのハーモニカ独奏で盛り上がった。鈴木英紀さんの中締めの後はテーブルを組み替えて半数ほど残った有志が 2 次会を開催。

みなさん大いに飲み、食べ、語り、笑って楽しい宴となりました。

私の趣味

我がアマチュア無線人生

西村 望

アマチュア無線は、素人無線と書かれることもあるが、国家資格を取得して開局、運用できる無線局です。戦前でも私設無線実験局として認められていた。

戦後は昭和 26 年 6 月に電波法が施行されアマチュア無線も再開された。

私は昭和 26 年 10 月に第２級無線技術士の国家試験を受け、翌年 6 月に第 1 級無線技術士、10 月第 2 級アマチュア無線技術士とトントン拍子に取得、12 月の始めにアマチュア無線局の開局申請、予備免許（この時点で　JA3CG の呼出符号が付与された）落成検査、本免許と、順調に進み 昭和 28 年 3 月に開局できました。高校 3 年生の春であった。

この免許の過程は一般の業務局と同じで落成検査には事務官と技官の 2 人が見え、実際に電波を発射して種々の検査をされた。この時私は 7MHz、50MHz と 144MHz と 3 台の無線機の検査を受けた。全て自作であつた。

ずいぶんと苦労しての開局であり、免許状が来て正式に電波を発射して交信できた喜びは今でも忘れられない。そして趣味としてのアマチュア無線にのめり込んでいった。

免許は 5 年毎に更新、再免許され、送信設備の変更には変更届の提出が義務付けられていた。再免許の際の変更は認められず、事前に変更届を出す必要があった。（今も同じ）

その後メーカー製の無線機が発売され、講習会で資格が取れる制度ができるなど手続がどんどん簡略化されていった。

移動局が認められるようになり免許状記載の場所以外でも運用できるようになり、出力 50W 以下の局はほとんど移動局として免許されるようになった。

車に無線機を積んだ移動局の有用性が認識されると商用、業務用の通信は禁じられているにも拘らず純粋なアマチュア無線以外に流用されるようになった。

山の上にレピーター局が設置され、より広域と通信できるようになり、遊びに行く時などは車と車、車と自宅、友達との通信などと実に便利であり、アマチュア無線人口は爆発的に増えていった。

また、パケット通信が始まりメールや一斉メールができるので益々増加の一途をたどった。さらにアマチュア無線衛星が打ち上げられ、衛星通信が盛んになり、音声の他に衛星経由でメールや画像が世界的に交換されるようになった。

私も全世界で 2000 局以上と衛星通信を楽しんだ。衛星通信の良い所はスケジュールが判かっており、混雑しても少し待てば交信できたことである。

ところが携帯電話やインターネットが普及し始めると、これらの多くの人々がそちらの方に移って行った。そして純粋にアマチュア無線を楽しむ人が残った。

最近は技術の進歩は目覚ましく雑音レベル以下の信号も受信できるデジタル通信が主流になりつつある。その主体は高度なパソコンのソフトで処理し、未交信のみを表示したり、特定した局を特記したり、自局が呼ばれたらドラムを叩いて知らせてくれたり、と実に多機能である。昔からハムは趣味の王様といわれている。まさしくライフホビーです。

写真は FT8 デジタル通信の 1 画面。

注：ハムはアマチュア無線の別称

シリーズ

我が家の災害対応作戦（その 1）

柳田 敏雄

くぐひ 98 号巻頭記事で長谷川元保さんからみんなで考えよう「我が家の災害対応作戦」が示され、新企画として各人の災害対応作戦を述べるようにとの依頼があった。

災害研究部会を始めて今年（2019 年）7 月で 4 年半となり部会も 50 回の開催を数える。翻って我が家の防災準備がどこまでできたか見直す機会にもなり棚卸をしてみよう。

先ずはトイレ。

一番記憶にあるテーマは「地震・津波の発災後、在宅で生活できる場合、トイレはどうするか」である。発災後、鵠沼は液状化現象が発生し上下水道が使用出来なくなると想定されており、その復旧には他地区の事例で 2～3 週間を要している。

トイレの処理方法は藤沢市自主防災組織編によると防災倉庫を備えていれば保管されるのはポータブルトイレ、備蓄用簡易トイレ処理袋（100 回分以上）の記述があるが、他の自治体や災害関連ＨＰからは 1 個 100 円程度の便袋を購入・使用する方法や 1 枚数円の 45ℓのゴミ袋 2 枚を重ねて使用する方法が説明されている。当災害研究部会ではどちらも可としており、我が家では費用が掛からずしかも毎日使用している 45ℓのゴミ袋を用意している。

45ℓゴミ袋で用を足した後に脱臭の為にペット用猫砂をひとつかみ播くが、同じ猫砂でも可燃性の猫砂でないと回収後のゴミ処理が出来ないためパルプ材使用の可燃性猫砂を購入した。右の写真は可燃性の猫砂で 7ℓ入っており、近くの FUJI スーパーで購入したもの。

ゴミ袋の枚数は 4 人家族のわが家では、大便：1 回／人・日、小便：4 回／人・日で 3 回使用毎にゴミ袋を交換とすると、大便用 1 枚×4 人×7 日＝28 枚、小便用 4 回×4 人×7 日／3 回＝37 枚、合計 65 枚なので、45ℓゴミ袋 150 枚入り 1 箱とパルプ原料の可燃性猫砂 1 袋を買い置きしている。但しこのゴミ袋の枚数は、発災後 2 週間が過ぎたら藤沢市のゴミ収集車が可燃ごみの回収開始することを前提にしている。

次は食料品、水。

1 週間程度は冷蔵庫・冷凍庫に保管している食材や缶詰で凌げるが、その後は在宅で生活する者も避難施設で被災者登録をして在宅生活者への食料品配布を期待することになる。

水に関しては、3ℓ／人・日が必要とすると、3ℓ×4 人×7 日＝84ℓとなる。

現在自宅に 12ℓ水タンク 2 個（24ℓ）、4ℓペットボトル 12 本（48ℓ）計 72ℓ常時保管しているが 84－72＝12ℓ不足状況となっており 12ℓ水タンク 1 個買い足す予定。加えて飲料水の定期的な交換作業を行っていないのが実情なので他の方々がどうされているか教えて頂きたい。

「高校生の簡易トイレのアイディアの中で使われた猫砂」
（文部科学大臣最優秀賞を受賞）

クラブ短信

「くげぬまあそび隊」

鵠沼公民館の事業「くげぬまあそび隊」の夏休み行事の一環として、7 月 20 日開催の「手作りおもちゃ」のイベントに当クラブが協力した。輪ゴム鉄砲、紙トンボ、紙吹き矢を実施、的当てコーナーも設けた。くげぬまあそび隊の参加者は小 4～6 年生の 37 名。

終了後の子供達の感想：

「探求クラブさんがエコで面白いおもちゃをいろいろ作った。作ったことがない吹き矢や牛乳パックで作るトンボなど作れてとても楽しかった。的当ては少しむつかしかったけど、みんなで当てあいっこをした。

～例会・各部会活動報告～

6月　June

○例会　１日 出席者 45 名 新会員候補:畑中･井上の入会承認
○行事　①「第 16 回ボウリング大会」江の島ボウリングセンター 12 日 12 名 個人戦優勝:小柳 団体戦優勝:鈴木(英)･池田(雄)･小柳チーム　②「七夕まつり」鵠南子どもの家 29 日 参加者 90 名（内保護者 31 名）鵠南小校長先生他２名 運営委員 10 名 ポンタの会２名 探求クラブ８名（内ゲスト１名）
○世話人・委員会　①世話人会 5/29　②メディア委員会 休会　③くぐひ制作部 12 日 98 号推敲完了 部数を 100 部に　④ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 ２日 18(内ｹﾞｽﾄ2)名 清掃等
○藤が谷公園愛護会 ９日８名 清掃
○ヤングハーツ５日幹事会・練習 25(15)名 ８日ｽﾐﾚの花(サ高住)４（１）11 日鵠生園(ホーム)21(10)名 17 日ささえ高木荘８（４）名 21 日藤沢病院(さくら棟)15(９)名
○おもちゃの病院 9 日/23 日 10(2)/11(1)名 来院 17/5
名 新患 15/7 件 退院 10/3 件 当日完治 3/2 件
○子どもと遊ぶ会(鵠洋児童館) ８日 ５名 子ども 13 名 保護者２名
○鵠っ子囲碁･将棋ルーム 16 日 11(２)名 囲碁同好会 ２名 子ども 17(鵠沼 11､村岡６)名 保護者８名　村岡公民館との交流対局会
○災害研究部会７日 6 名 FSV 退会報告等
○極楽部会 19 日 13 名 危険な習慣､歩きの効用等
○サロン会 29 日 10 名 豊富な料理･酒･話題
○健康部会 中止
○探訪部会 18 日 ８名 八雲神社･東慶寺･浄智寺･葛原岡コース
○カラオケ部会 17 日 8(1)名
○農園部会 ２日８名､臨時 13 日８名､臨時 17 日４名
○談話室 19 日 10名 税とお金の話題等
○スケッチ部会 20 日 藤沢･万福寺 ３（１）名
○デジタル情報部 24 日 12 名 ｸﾗｳﾄﾞｽﾄﾚｰｼﾞｻｰﾋﾞｽ等
○ヤングブラザーズ 14 日 22(7 先生 3)名、22 日 20(6 先生 3) 基礎練習等
○近代史を語る会 13日19名 (7)横浜大空襲等体験談
○企業研究部会 26日 ８名 ｷﾘﾝﾃﾞｨｽﾄﾗﾘｰ)
○なつかしの名盤愛好会 17日 ８(1)名
○俳句の部会「似歌会」11日 11名「梅雨」「窓」

7月　July

○例会　６日 出席者 44 名
○行事　①「手作りおもちゃ くげぬまあそび隊」鵠沼公民館 20 日 あそび隊 37 名 探求クラブ 14 名②「鵠洋児童館 流しそうめん」28 日 そうめん参加者:65 名 PTAﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ:6 名 児童館職員:6 名 探求クラブ:12 名(内ゲスト２名)
○世話人・委員会　①世話人会 3 日 ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 10 日 10 名 99 号第 1 回編集会議 ④HP 制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 21 日９名 ２度順延､清掃
○藤が谷公園愛護会 21 日７名 清掃
○ヤングハーツ ３日幹事会･月初練習 19(10)名 9 日鵠生園(ﾎｰﾑ) 22(12)名 19 日藤沢病院 訪問中止
○おもちゃの病院 14/28 日 11(1)/13(1)名　来院者 13/15 名 新患 17/8 件 退院 6/9 件 当日完治 0/5 件
○子どもと遊ぶ会［行事参照］
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 21 日 8(2)名 囲碁同好会 2 名 子供:将棋 14 名 保護者 4 名
○災害研究部会 臨時５日８名 24 日企業研究部会と合同で辻堂浄化センター見学
○極楽部会 25 日 21 名 ゲスト 4 名外部講師 4 名 高齢者財産の保全､処分､運用について
○サロン会 20 日 11 名
○健康部会 休会
○探訪部会 休会
○カラオケ部会 15 日 8(1)名
○農園部会 17 日７名
○談話室 17 日９名 諸話題
○スケッチ部会 18 日 4(1)名 室内で模写･スケッチ
○デジタル情報部会 22 日 13 名 無線通信等
○ヤングブラザーズ 練習 12 日 21 (7 先生 3) 名 27 日 19 (7 先生 3)名
○近代史を語る会 11 日 13(7)名 昭和時代 14 回目
○企業研究部会 24 日 20(2)名 辻堂浄化センター
○なつかしの名盤愛好会 15 日９名
○俳句の部会「似歌会」９日 10 名「夏休み」「瓦」

8月　August

○例会　３日　出席者 44 名
○行事　①「納涼会」17 日 藤が谷市民の家 35 名　②「夏休み子ども教室(将棋)」26 日 湘南台公民館 子ども 17 名 公民館２名 探求クラブ８名 公民館から出張指導要請
○世話人･委員会　①世話人会 7/31 日 ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 14 日８名 99 号第２回編集会議 ④HP 制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護４日 14 名 清掃
○藤が谷公園愛護会 11 日 12(1)名 清掃
○ヤングハーツ １日ラフターヨガ 参加７名･先方:20 名 ７日幹事会･月練習 23(12)名 13 日鵠生園(ﾎｰﾑ) 19(11)名 16 日藤沢病院 18(12)名 23 日鵠生園(ﾃﾞｲ) 18(10)名 31 日敬老会向け練習 15(9)名
○おもちゃの病院 11/25 日 11(1)/13(2)名　来院者 8/12 名 新患 5/8 件 退院 2/12 件 当日完治 0/7 件
○子どもと遊ぶ会 鵠洋児童館 10 日 子ども 10 名 保護者２名 探求クラブ 6(1)名 児童館職員２名 水鉄砲
○鵠っ子囲碁･将棋ルーム 18 日 8(2)名 囲碁同好会 2 名 子供 将棋子供８名 保護者２名
○災害研究部会 2 日９名 臨時 20 日５名 まつり展示協議等
○極楽部会 休会
○サロン会 休会
○健康部会 休会
○探訪部会 休会
○カラオケ部会 19 日７名
○農園部会 4 日 7 名 撤収･植え付け･天地返し
○談話室 21 日７名 今後の懇親会等
○スケッチ部会 15 日 3(1)名 公民館内で模写等
○デジタル情報部会 休会
○ヤングブラザーズ 9 日自主練のみ 24 日 17(6 先生 3)名
○近代史を語る会 休会
○企業研究部会 28 日４名 悪天候の彫刻の森美術館
○なつかしの名盤愛好会 19 日 9 名
○俳句の部会「似歌会」6 日９名「夏の風景」「江ノ電」

やもをの心得　その４

やもをの泪

森 正孝

　私は今年の二月にくげぬま探求クラブへ入会したばかりですが、当会に正式な部会ではないが「やもを会」なるものがあり、入会資格保有者であるとお誘い頂き、晴れて（？）メンバーとなりました。

　つれ合いを失くした男性（離婚も死別も）を表す言葉として「やもを」なる言葉があることを知ったのは当会へ入会してからです。さらに「鰥」なる漢字まであるとは・・。我が国の文化の奥深さに感心するとともに、自分の知識の浅さを改めて感じました。

　男女が結婚し、ある時から夫婦となり終生の生活を誓うも、残念ながら生者必滅会者定離の定めの通り、いつかは別離が来るものです。そして特別な場合を除き、普通はどちらかが先に亡くなります。先日公表されました日本人の平均寿命は男性が 81.25 歳、女性が 87.32 歳。その結果圧倒的に女性が勝ち（？）残り「寡（やもめ)」が多数派となり、「鰥（やもを)」は希少種と言えるので、誇りを持っていいと思います。

　「やもを会」は毎月一回メンバー5 名とサポーターの皆さんで、手料理とお酒を間に会話を愉しんでいますが、会創設メンバーである故・野口昌久さんの墓参に行こうとの話になり、2 回目のご命日である 8 月 24 日に墓参にお伺いしました。
当日は、故人の大学時代からのご友人夫妻、愛娘のＹ子さん＋α、クラブ有志と会メンバー、総勢 11 名で墓参し、各人が故人を偲び墓前に手を合わせました。

　その後、辻堂駅前で食事会となりましたが、その席上で愛娘のＹ子さんから、当日参加していた男性との婚約が調い、今年一番の吉日である 9 月 8 日に婚姻届けを提出する、とサプライズ発表がありました！

　都合がつけば「やもを会」にも出席し、花を添えてくれていたＹ子さんが交際中であることは感じていたメンバーも、小泉進次郎・滝川クリステル張りの突然の発表に、驚くとともに慶び、偲ぶ会は一転して祝賀会になりました！

　何よりもご両親がお慶びになっていることと存じます。

　「鰥」という字は、魚の目から泪がこぼれているのを表しているのだそうですが、今日はうれし泪だったと思います。吉報に触れ、食事会のアルコールもあって、気持ちよく家路に着いた一日でした。

編集後記　巻頭には「公民館まつり」の紹介記事。例年世話人代表が書いていたが、今回は編集委員からの意見もありくぐひ編集部がその任に当たることになり、小山編集委員が執筆した。各イベントの今までの経緯が紹介されている。親睦・研鑽部会紹介はサロン会を萩原さんが、探訪部会を森芳之さんが執筆。新入会員紹介のコーナーには畑中さん、井上さん、田嶋さんが登場。入会「ビフォア・アフター」には経験豊富なベテラン会員の新村さんが登場。湘南台公民館より鵠沼公民館経由で協力依頼を受けた「夏休みこども教室（将棋)」のイベントを当クラブが支援した件を池田修さんが報告。「私の趣味」には西村望さんがアマチュア無線の蘊蓄話を披露。新シリーズ「我が家の災害対応作戦」の第一回には災害研究部会長の柳田さんが登場、他の会員に参考になることを期待。次回以降も引き続き皆さんの積極的な投稿を。「やもをの心得」には森正孝さんが執筆、故野口さんらが登場する感動話。「会報くぐひ」の次号（令和 2 年正月号）は節目の第 100 号となるので、それにちなんだ記事をもとめます。自薦他薦を問いませんが、別途個別にもお願いしようと思いますのでよろしくお願いします。（塩爺）

会報　くぐひ　第 99 号
2019 年 10 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 奥村 誠
編集人 塩川 昌男

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください